

離島巡回歯科診療同行実習を終えて（悪石島）

中山麻衣

私は、11月11日～13日（2泊3日）、離島巡回診療同行実習にて、悪石島へ行ってきました。悪石島は鹿児島市から292.5km南下した位置にあり、人口61名、世帯数33戸（平成23年4月）の島です。鹿児島市を深夜に出発して、約11時間の船旅でした。

行きフェリーの中で、諏訪之瀬島の島民の方とお話する機会がありました。その方は、本土に歯科治療に行くのは、時間や労力、滞在費などの負担が大きく、すごく大変なことであると仰っていました。また、高齢であったり、様々な障害があったりして、治療に行きたくても行けない人がいる、ということも教えていただきました。悪石島に到着する前に、少し離島の現状を知ることができました。

島に到着すると、想像以上に何も無いことに驚きましたが、自然豊かな美しい島であると感じました。到着後は、すぐに診療の準備が始まりました。診療は、歯科巡回診療車のこじか号と、ポータブルユニットをコミュニティセンター内に設置して行いました。準備は診療スタッフによって手際よく行われ、約1時間ほどで、歯科診療所が完成しました。

私は、2～5時の午後の診療に参加し、おもに小児の診療の見学をしました。歯科医院のないこの島の子供たちの口腔衛生状態が良好に保たれているか心配でしたが、診療に来た島の子供たちにはほとんど齲蝕は無く、その代わりにシーラントなどの予防処置がされていることが多く驚きました。保護者の方々も、子供たちの口腔内の状態を非常に気にしており、予防に対する意識がすごく高いことがわかりました。これには、歯科医院に行きたくても簡単には行けないというこの島の現状が関係していると思いました。そして同時に、この島における巡回診療の役割が非常に大きいことを感じました。

私は、口腔内診査、ブラッシング、PMTTC、フッ素塗布などをさせていただきました。島の子供たちはみんな元気で、大変なこともありましたが、診療が終わり、ありがとうございました、とお辞儀をされた時は、本当に嬉しかったです。

こじか号での成人系の診療は、時間の関係であまり見学することができなかったのですが、2年越しで治療をされている方もいるということを知り、驚きました。たとえ一回の巡回診療で治療を終わらせることができなくても、できる限りの治療をして、次に来る先生に続きを託す。そうすることで、時間はかかっても患者によりよい歯科医療を提供することができるかと学びました。また、島でできる限りの治療をしておけば、本土で続きを行う際に、治療期間を短くすることができ、負担を減らすことができる。そういう意味でも巡回診療が役立っていることがわかりました。

今回の日程では、島の滞在時間が約23時間という短い時間でしたが、本当に貴重な体験をすることができました。離島実習に参加することができて本当に良かったです。このような機会を与えて下さった歯科医師会の方々、ご指導頂いた先生方、そして悪石島の方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。



11/11(金)23:50 鹿児島本港出発



フェリーから見た悪石島



仮面神ボゼがお出迎え



こじか号とコミュニティセンター



PMTCをしているところ



島には猫がたくさんいました

悪石島での離島巡回歯科診療同行実習を終えて

北村優奈

私は、11月の悪石島での離島巡回診療に同行させていただきました。悪石島までの11時間という長い船旅の中で、離島での診療は本土とどう違うかなどのお話を、先生方からたっぷりお聞きして、わくわくしながら上陸しました。

診療は小児と成人に分かれて行い、診療車と、コミュニティセンター内に即席の診療台を設置しました。タービン・コントラ・スリーウェイシリンジからライトまで、普段の大学病院では当たり前のように使っているものの全てを、悪戦苦闘しながら配線を整えます。

離島では、設備や材料のそろった本土と違って、いつでも何でもできるわけではなく、その限られた環境の中で患者さんにとって最も良い方法を考えなければいけません。先生方は、年に2回しかない診療をととても大切にしており、患者さんへの対応はとても丁寧でした。

もし何かあったとき、本土の方ならすぐに大学病院に来てもらって対応できることでも、島民の方は簡単に本土に上がってくることはできません。長旅の上、船の便数も少ないし、天候にも左右されます。それに島で働いている方は、治療のために長期間仕事を休むわけにもいきません。歯科医師は、それらのたくさんの離島ならではの条件を考慮して、患者さん自身に寄り添って治療を行わなければ、患者さんの満足を得られないのです。離島という、我々の日常から遠く離れた場所での歯科医療こそが、我々が目指すべきとされているPOS(Patient Oriented System)、つまり“患者中心”の医療なのではないかと思いました。

多くの場合、歯科治療は一度きりでは終わらないものです。そんな中で、一回の診療でできる最大限のことをして、次の巡回診療にどうつなげようかと考える先生方はとても真剣で、見学している私たちにも離島診療の難しさと面白さが伝わってきました。

診療後は、数ある離島のなかでも悪石島ならではの温泉につかり、疲れを癒したり、民宿では先生方や歯科医師会の皆さんとの懇親会も行ったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。お世話になった島民の方々、先生方、歯科医師会の皆さんに改めてお礼を申し上げます。

